7月園だより

２０２１年度　年主題〈共に喜んで～すべての歩みの中～〉

0･1･2歳児７月主題「やってみる」

月のねがい

◎保育者の祈りやさんびかに親しむ。
◎水や砂に触れて、夏の遊びを楽しむ。
◎食事、睡眠を十分にとり健康に過ごす。
◎気持ちを丁寧に受け止めてもらいながら、自分からやってみようとする。

3･4･5歳児７月主題　「心ゆくまで」

月のねがい

◎さんびかを歌ったりお祈りすることが生活のひとこまになる。
◎自分の思いを保育者や身近な友だちに伝えようとし、態度やことばで表す。◎遊びの中で、表現すること･探究すること･交わることを心ゆくまで楽しむ。
◎心身を開放して遊び過ごす中、夏を感じ楽しむ。

今月の聖句

「あなたがたは　世の光です。」　マタイ 5：14

「あなたがたは世の光です。」これは聖書の中でもよく知られた言葉です。教えを聞きに集まった群衆に対して、イエスさまが語られたみ言葉です。光は暗闇の中に置かれる時、その闇を打ち消し、明るくします。一人ひとりの存在が、周りに光をもたらし、明るくしてくれる。それは人間社会、人間関係においてこそ、必要なことです。特にコロナ禍で閉塞感漂う今の世にあって、周りを明るくしてくれるもの、そのような存在はますます必要です。

イエス･キリストは光なるお方です。けれども、イエスさまはここで「私が明るくしてあげよう」とは言いませんでした。「あなたが世の光だ。あなたが明るくするのだ」と言われています。性格が明るい人が光となるのでしょうか。何らかの偉業を成し遂げた影響力のある人でしょうか。確かに、そうとも言えます。けれども、この言葉は本来、群衆に語られた言葉です。ごく普通の、当たり前の、平凡とも言うべき人々に語られました。人々があまり注目しない、特に気に留めることもない人々に向けて語られました。

例えば、その中にはこども園に通うような幼い子どもたちも含まれます。けれども、イエスさまはその子供たちのことを次のように扱われました。「子どもたちを来させなさい。わたしのところに来るのを邪魔してはいけません。天の御国はこのような者たちのものなのです。」子どもたちは時に周りに笑いをもたらしてくれます。私たちの心を和ませ、微笑ませ、明るくしてくれます。一生懸命に生き、必死で何かに取り組むその姿から、私たち大人は忘れかけていた大切なことを思い出したり、心に留めることが出来ます。園での子どもたちの経験が、ますますそのようなものとなるように祈ります。

協力牧師　池田基宣

７月の行事予定

1 日（木）	役員会・七夕訪問（３才児）
2 日（金）	海遊び（2･3 才児）
	七夕訪問（4･5 才児）
6 日（火）	海遊び（4･5 才）・弁当日
10･11 日	お泊まり保育（年長児）
15 日（木）	市営プール（3~5 才）･弁当日
19 日（月）	一学期修了式
21 日（水）	避難訓練

８月の行事予定

2 日（月）	夏季保育･おまつりごっこ
13･14 日	弁当日
18 日（水）	避難訓練
20 日（金）	夏季保育
21 日（土）	職員園内研修
28 日（土）	めぐみ誕生会（7 月生）

伝える･伝わる･つながる

0,1,2歳児のクラスでは言葉が上手く話せない分、片言やジェスチャー、表情で伝えようとします。今回は、2つのエピソードをご紹介したいと思います。

めぐみ組のKちゃん。お外に行く準備で子どもたちは保育者からカラー帽子を一人ずつ受け取るのですが、Rちゃんは別の保育者と靴下履きに挑戦中!!そこでKちゃんに、「Kちゃん、Rちゃんに帽子持って行ってくれる？」とお願いしてみると、一歩ずつ恥ずかしそうにゆっくり近づいていきます。それに気づいてRちゃんも手をのばします！そして二人とも手を伸ばした状態で帽子の受け渡しです。(^^)なんだかソーシャルディスタンスみたい(笑)。帽子を渡してくれたKちゃんは保育者の元に走ってやってきて「(で)きた！！」と笑顔でとっても嬉しそうに目配せしてくれました。友だちに帽子を渡せたこと、友だちが受け取ってくれたこと、友だち、保育者と通じ合えた嬉しい瞬間でした。

ひかり組の保育者が排便をしたH くんに、「今日のウンチは、何うんちかな？」とお話ししながらトイレに向かうと、「ヒタうんちだよ!!」。T「ヒタうんち？」H「ううぅん！ちやう!!ヒタうんち！」T「う～ん･･･したうんち？」H「ちやう!!」T「う～ん、きた？」H「ううぅん！ちやう!!ヒ、タ、うんち！」と一生懸命伝えてくれるH くん。「うーん、ごめん。先生わからないや。ごめんね。」の声に、「うーん。。。あの、どーぶつにいるんだよ！！」と険しい表情になりました。T「どうぶつ？、、、あっ！シカ？！」H「うん!とう!!ヒタ!!!」と笑顔に♡会話が繋がった瞬間でした！

毎日のように0,1,2歳児のクラスでは小さな“できた“や言葉や行動がつながった喜びの繰り返しです。時には、思うようにいかず、手がでてしまったり、口があいて(噛みつき)しまったりの行為も見られますが、 思うように伝えられず、伝わらず、モヤモヤしての最終手段だと私たちは捉えているところです。こども一人ひとりの感情に寄り添い、つぶやきをひろいながら遊びの中の学びを経験していけたらと思います。

主任:伊豆元

あそびの中からひらめきが

二週間ほど平年より早かった梅雨入りでしたが、梅雨明けも昨年と同様 月末頃まで延びそうですね。例年ならとっくに明けているはずの沖縄では、線状降水帯による大雨になるなどまだまだ油断ができません。また、本市は五月十九日以来、コロナの新規感染者も無く、ワクチン接種も順調に進んでいるようです。何より重症化する方々の数が増えないことを願うばかりです。

先日、ジャーナリストで作家や評論家でもあった立花隆さんが亡くなられました。私の本棚にも『宇宙からの帰還』があり、若い日に夢中になって読んだことを思い出しました。宇宙飛行士の野口聡一さんはこの本がきっかけで、宇宙飛行士を目指したそうです。「知の巨人」と呼ばれるとおり、様々なジャンルに亘る研究や創作活動は精力的で、まさに涸れることのない知的好奇心の泉を内に持った方だったと言えるでしょう。

幼児期の成長にもこの「好奇心」というワードは欠かせないものに思えます。日々の様々な出会いやあそびの中で、「へえ～、すごいなぁ！」「おもしろいね！」と心を動かし、「どうしてこうなるの？」「触ってみようか？」「もっと･･･したい！」と興味･関心が高まる瞬間が素晴らしいです。そして、友だちや保育者などと感動を共有しながら探求する姿も見えてきます。好奇心を抱いたものに対して「～するためにはどうしたらいいだろう」「どうしたらうまくいくだろう」と試行錯誤することによって、新しい知識を得たり、原因を探ろうとする気持ちが「探究心」へと向かっていくのではと思います。先日までいた四歳の孫が、私には見分けがつかないパキケファロサウルとステゴケラスを瞬時に見分けて呼んだり、字もあまり読めないのに、ケツァルコアトルスとかパラサウロロフスなどと、頼まれもしないのにいつの間にか覚えてしまっているのは驚きでした。あれやこれやと期待するより、目の前の好奇心を大切にしたいものです。

入園･進級から三ヶ月が経ち、子どもたちの行動や活動も活発になってきました。友だちや保育者との関係性も少しずつ広がり、深さも増してきているようです。当初、砂場の砂から始まった遊びが水や泥や葉っぱなどを加え、様々な感触を楽しむようになります。年長の子どもたちになると、土地の起伏を利用したり、工夫次第で遊びが展開していくことに気づき始めています。いよいよ彼らの宇宙が面白いことになってくるわけです。海や川、山や野原で走り回り、カニや小魚やカブトムシを追いかける。時にはロケットが飛んでいく姿を見上げる。人生の基盤となるこの時期を、家族や友だちと種子島で過ごす子どもたち･･･なんて素晴らしい時間を与えられたことか。どうぞ宝物のような瞬間を皆さんで楽しんでください。子どもたちのために今できることを、皆さんが共に整えてくださることに心から感謝いたします。この夏も子どもたちと共に暑さを乗り切っていきましょう。

学園長

〔 ５才児の発達の姿 〕

※友だちとのつながりを感じながら、自分の力を試していく時期

年長になった子どもたちは、一番年上のクラスになったことで、とても張り切っています。年少の子どもたちのお世話をしようとしたり、当番活動を頑張ったり、今まで出来なかったことに挑戦したりしますが、気持ちばかりが先走って空回りすることもあります。

〔この時期のねらいと内容〕

自分の力を試しながら進んで遊びや生活に取り組む

- 新しい遊びに挑戦しながら、意欲的に自分の力を試してみようとする（主体性）
- 年長児になった喜びを感じながら張り切って生活する（自信）
- 片付けパトロールや当番活動など園で必要な事を進んでやろうとする（主体性）

「自分の力を試しながら進んで遊びや生活に取り組む」

子どもたちが力を試す場合は、今まで出来なかった鉄棒に挑戦しようとしたり、当番活動を張り切ったりするなど様々です。ただし、気持ちはあってもうまくいくことばかりではないので、気持ちが切れたり自信をなくしたりすることもあります。

そこで、この時期には、子どもたちのやろうとする意欲を受け止め、実際に取り組めることを支えながら、うまくいかないことも含めて支えていくことを大事にしていきます。関わる大人がゆったりとした気持ちで、出来ない気持ちも受け止めつつ、もう一度やってみる道筋を残しておくような援助が大事になってきます。この時期に挑戦し、苦労して実際になしえたことは、確かな自信となり、今後の園生活のさらなる意欲を生んでいきます。

広島大学附属幼稚園　松本信吾氏　編著より